

第167期

中間報告書

2025年4月1日から2025年9月30日まで

Denka

Possibility
of
chemistry

デンカ 株式会社

(証券コード: 4061)

- P.1 マネジメントメッセージ
- P.2 業績・財務データ
- P.4 高速通信社会の発展に貢献する新素材「スネクトン」
- P.5 ニュースチェック

同封 uruoi 株主優待販売のご案内

Possibility of chemistry

13:35.25

Dusseldorf

110 years
est. 1915

マネジメントメッセージ

経営計画「Mission 2030」におけるこれまでの取り組みを確実に収益化するとともに、コアバリューである「挑戦」をさらに浸透させ「実行力」を一層高めることで、デンカのありたい姿を実現いたします。

代表取締役会長 今井 俊夫(左)

代表取締役社長
社長執行役員 石田 郁雄(右)



株主のみなさまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。
当社の第167期中間報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶を申しあげます。

2025年度上期のわが国経済は、個人消費や設備投資が弱い動きとなるなど、景気は足踏み状態となりました。世界経済は、全体としては持ち直しましたが、米国の関税率引上げなどにより先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような状況下、当社グループは、経営計画「Mission 2030」に掲げる「事業価値創造」、「人財価値創造」、「経営価値創造」の3つの成長戦略にもとづく施策を推進し、業容の拡大と収益の確保に注力いたしました。

この結果、当中間連結会計期間の業績は、電子・先端製品の販売数量が増加しましたが、原燃料価格の下落に応じた販売価格の見直しや円高による手取り減があり、売上高は1,966億99百万円と前年同期に比べ23億54百万円(1.2%)の減収となりました。収益面では、営業利益は97億40百万円(前年同期比3億54百万円増、3.8%増益)となり、経常利益は67億91百万円(前年同期比12億17百万円増、21.8%増益)となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は、期限を定めず暫定停止している米国の子会社デンカパフォーマンスエラストマー社(以下、DPE)に関わる特別損失を計上した一方で、特別利益として大船工場の工場用地の譲渡益を計上したことから、39億2百万円(前年同期比5億30百万円増、15.7%増益)となりました。

当社は、2023年度にスタートした経営計画「Mission 2030」の計画達成に向け、拡大する市場での積極的な先行投資、不採算事業の整理、新規事業創出への取り組み強化などの戦略を実行してまいりました。しかしながら、xEV市場や半導体市場などの急激な市場変化に伴う先行投資の収益化遅れや、DPEにおける想定以上の対応長期化に加え、新製品開発の遅れもあり、収益力が低下し、計画策定時の目標との乖離が生じております。

このため、2023年度から「フェーズ1」として実行してきた取り組みを確実に収益化させるべく、経営計画の見直しをいたします。見直しの方向性としては、ありたい姿として、2030年度の目標としていた営業利益1,000億円、ROE15%、3つ星事業100%は堅持するものの、達成がより現実的な時間軸へシフトさせ、後ろ倒しいたします。2026年度から2028年度を経営計画「Mission 2030」における「フェーズ2」とし位置付け、利益の回復・復活を最優先事項とした取り組みを重視し、蓋然性の高い数値目標として過去最高益となる営業利益400億円超とROE8%以上を目指します。

最優先事項である利益回復の施策の1つ目は、「DPEに関連する負担の早期軽減に向けた取り組み」です。DPEでは、製造設備を安全な状態で完全に休止させるため、製造設備に残

る原材料や中間品等の危険物の抜き出しと処分作業を着実に進めており、また、DPE品を使用していたクロロブレンゴムのユーザーに対する青海工場品への切り替えは、既に完了しております。2026年度以降も抜本的対策の進捗により、相応の特別損失計上の可能性が高いことから、この損失計上額を最小化するため、あらゆる手段を講じてステークホルダーとの様々な調整・交渉を行ってまいります。

2つ目の施策は、「注力分野の選択と集中」です。当社の事業戦略を、戦略的拡大、先行投資の刈り取り、事業モデル転換の3つに分け、メリハリをつけて戦略を実行していきます。具体的には、当社の得意分野である最先端サーマルマネジメントの領域を戦略的拡大として位置付け、生成AIや電力インフラなどの拡大市場を捉え、事業を拡大させるとともに、ヘルスケアの領域においては、アライアンスやM&Aを活用しながら事業成長を実現します。先行投資を実施した事業は、需要の回復や拡大を待つだけでなく、自らアクションを起こし、早期収益化に確実につなげるとともに、低収益事業の構造改革を断行し、事業モデルの転換を図ることで、収益性の回復を実現いたします。

最後に3つ目の施策である「新規事業創出の現実的アプローチ」として既存製品の周辺市場に横展開する「染み出し戦略」による新規事業の早期実績化を加え、中長期的にはこれまで実行した先行投資や不採算事業の整理などの取り組みを確実に収益化し、「稼ぐ力」を再構築したうえで、ありたい姿として「営業利益1,000億円、ROE15%」を目指します。

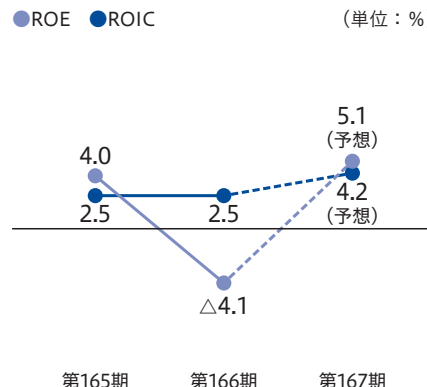
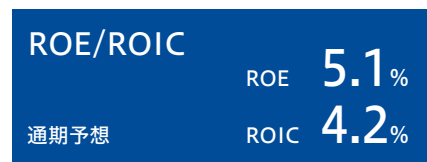
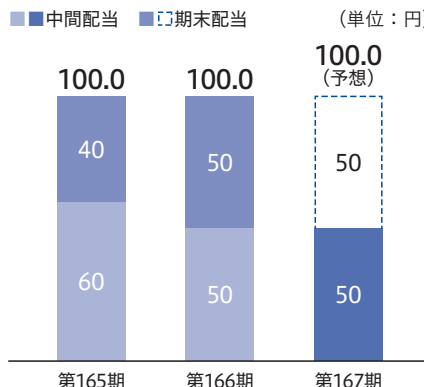
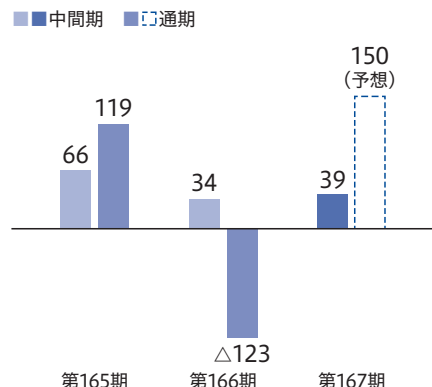
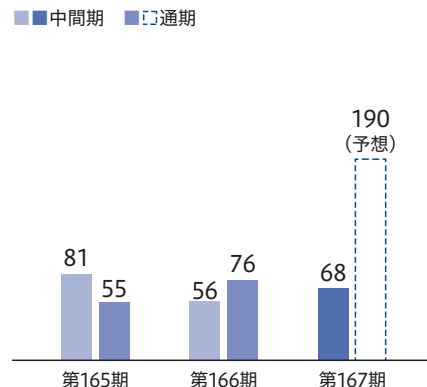
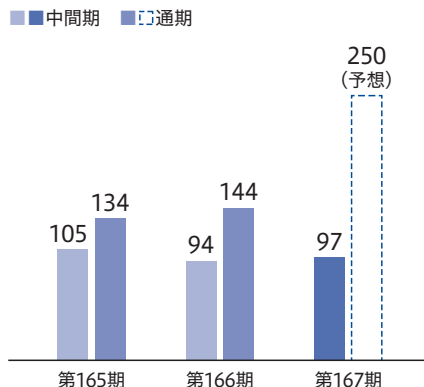
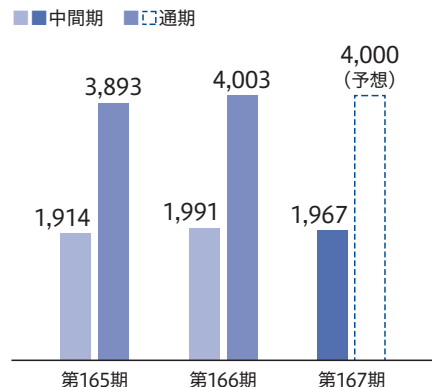
このためには、持続的に収益を生み出し、成長し続ける企業体質へ転換する必要があります。経営計画における3つの注力分野のうち、「Sustainable Living」分野は、ポートフォリオ変革を断行し、利益やキャッシュを生んでいるのではなく、当社がベストオーナーかどうかを判断することで、確実に勝残る事業のみへ厳選し、競争優位性のある事業へ変革させます。そのうえで成長ドライバーとして会社を牽引する「ICT & Energy」分野と、安定成長を追求する「Healthcare」分野のベストミックスにより、企業価値を向上させてまいります。

当社は「挑戦」「誠実」「共感」というコアバリューのもと、「化学の力で、世界をより良くするスペシャリストになる。」というパーパスを掲げています。今後、コアバリューの1つである「挑戦」をさらに浸透させ「実行力」を一層高めることで、デンカのありたい姿を実現してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

業績・財務データ

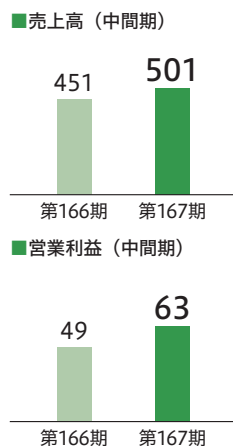
業績ハイライト (単位：億円)



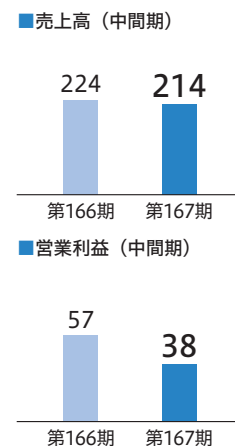
セグメント別の状況 (単位：億円)



- 球状シリカは、生成AI向けの需要が拡大し増収となり、球状アルミナの販売も堅調に推移しました。
- アセチレンブラックの販売は、xEV向けは前年を下回りましたが、高压ケーブル向けが前年を上回り、全体で増収となりました。
- 高信頼性放熱プレート“アルシンク”は、電鉄向けの需要回復や直流送電向けの需要増加により増収となりました。



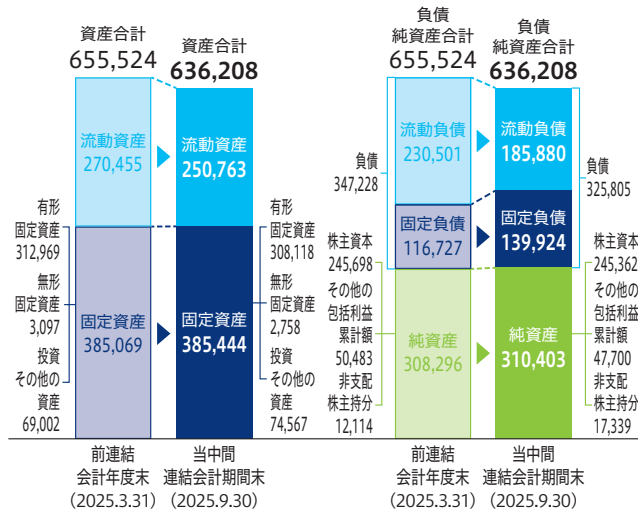
- POCT検査試薬は、新型コロナウイルスの感染者数が前年に比べ減少したことから、販売数量は前年を下回りました。
- その他の検査試薬の販売は、一部海外向けの不調もあり、前年を下回りました。
- インフルエンザワクチンは、計画通りの出荷となりました。



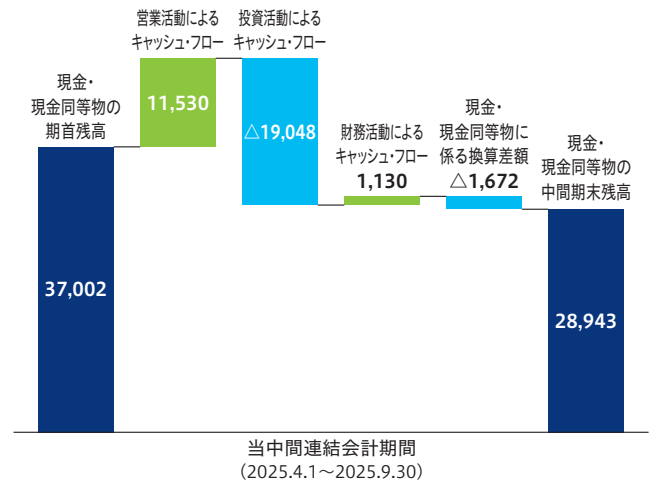


財務ハイライト (2025年9月30日時点)

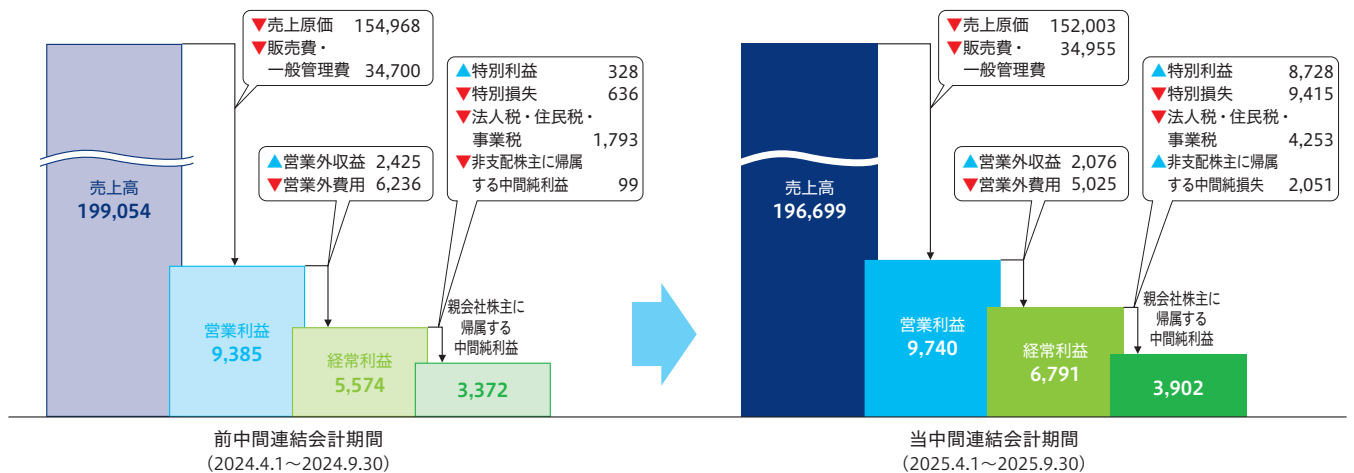
連結貸借対照表の概要 (単位: 百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 百万円)



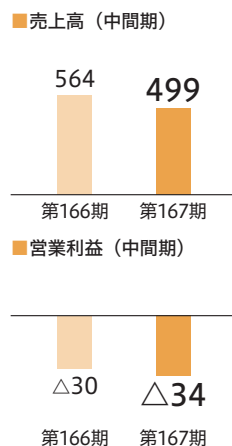
連結損益計算書の概要 (単位: 百万円)



エラストマー・インフラソリューション部門

売上高 499億円
営業利益 △34億円

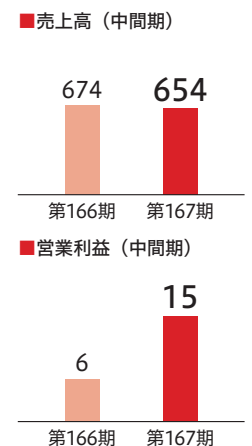
- クロロプレンゴムの需要は引き続き低調に推移しました。
- 農業・土木用途向けのコルゲート管の販売は前年並みとなりましたが、特殊混和材の販売は工事遅れなどの影響により前年を下回りました。



ポリマーソリューション部門

売上高 654億円
営業利益 15億円

- 当部門の製品は、原燃料価格の下落に伴う販売価格の見直しを行いました。
- AS・ABS樹脂やスチレンモノマーの出荷は前年を上回りましたが、デンカシングポール社のMS樹脂は前年を下回りました。
- 食品包材用シートおよびその加工品の販売は、需要回復が遅れており、前年並みとなりました。



高速通信社会の発展に貢献する 新素材「スネクトン」



2025年に本格的に販売を開始した低誘電有機絶縁樹脂「スネクトン」。

これからの高速通信社会の実現に欠かせないキーマテリアルの一つとして注目を集めています。

高速通信社会と電子回路基板

5G、Beyond5Gといった高速通信技術は、2030年以降、あらゆる産業や社会活動の根幹を支える存在になると期待されています。次世代高速通信により変革される多様なサービス・アプリケーションの裏側ではデータセンター、通信基地局、生成AIサーバーといった設備が重要な役割を果たしており、設備の拡大・拡充が進んでいます。それに伴い、データ通信もより大容量・高速化が求められており、データ伝送を担う電子回路基板の性能向上がその鍵を担います。

電子回路基板とは？

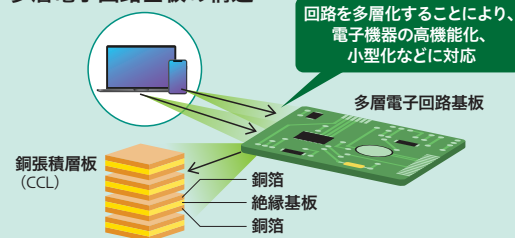
あらゆる電子機器に不可欠な主要部品で、電子部品同士を電気的に接続して信号や電力を伝達する役割を担っています。

軟質系樹脂・硬質系樹脂・フィラーなどを材料としたものが絶縁層となり、その上に銅箔を貼った材料をCCLと呼びます。エッチング(*)して回路パターンを形成したCCLを何層も重ね合わせることで多層化された電子回路基板が完成します。

(*) エッチング

化学薬品などを用いて材料の表面を一部溶かして除去することで回路パターンを形成する方法

多層電子回路基板の構造

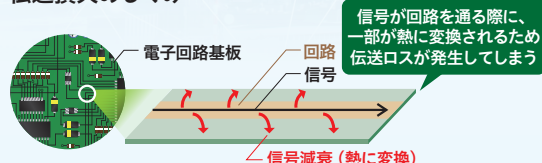


高速通信の壁「伝送損失」

電子回路基板の性能向上を果たすための一番のハードルが「伝送損失」です。伝送損失とは、回路基板の中で電気信号が熱に変換され、伝送データのロスが生じてしまう現象です。

通信速度の向上と大容量データ通信を実現するためには、この伝送損失を抑制することが不可欠であり、新たな絶縁材料が強く求められています。

伝送損失のしくみ



高速通信社会の実現に欠かせないキーマテリアル「スネクトン」

2025年2月より販売開始したスネクトン。この製品は伝送損失を低減させる低誘電率と低誘電正接という電気特性を備えた軟質系樹脂素材です。



既存製品の中で最も性能の高い他製品と同等以上の低誘電正接性能を持つだけでなく、積層加工が可能で耐熱性や銅箔との密着性にも優れています。

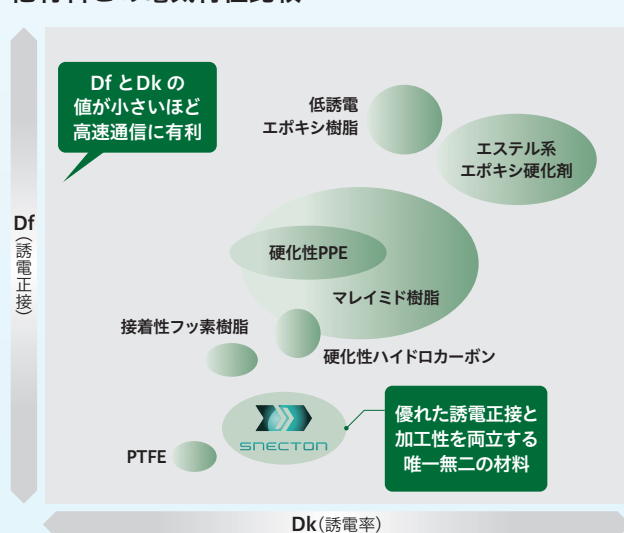
スネクトンは整備が進むデータセンターや携帯電話基地局、AIサーバーなど幅広い分野におけるマザーボードでの活用を主な用途として想定し、CCLの他、他用途への採用も検討が進められています。

誘電率と誘電正接とは？

誘電率(比誘電率：Dk)：配線を電気信号が流れるときに、どれだけ分極(電気が偏る)するかを示す値で、この値が低いほど信号を高速かつ正確に伝送することができます。

誘電正接(Df)：物質内を通る際の電気エネルギーの失われやすさ(減衰の度合い)を表し、低いほど電気エネルギーが吸収されにくく、信号を遠くまで効率よく伝送することができます。

他材料との電気特性比較



スネクトンのこれから

今後はさらなる低誘電性能を追求したものや、お客さまの使いこなしを考えたものなど、さまざまなグレードでラインアップを拡充していく予定です。

特に、現在開発に尽力しているのが硬質系のスネクトン。硬質系樹脂は基板材料の中でも主材料となるため、製品化することができれば事業規模はさらに拡大することが予想されます。ほかにも、デンカはスネクトン同様回路基板に添加して使用されるフィラーである低誘電シリカをラインアップしており、CCLを構成する材料の多くを供給できる体制を持つメーカーです。

今後、顧客の多様な要望に応じた材料提案を行い、低誘電材料のニーズにワンストップで対応していくことで、2030年までにスネクトンとフィラーを合わせて年間200億円の売上達成を目指しています。

腐植酸苦土肥料「アヅミン」 ～家庭菜園向けパッケージのオンライン販売開始～

長年にわたりプロ農家のみなさまにご愛顧いただいております腐植酸苦土肥料「アヅミン」は、このたび家庭菜園向けのパッケージの販売を開始いたしました。本製品は、JA全農が運営する公式オンラインショップ「JAタウン」にてお求めいただけます。これまでお客さまから「少量で試したい」「一般向けにも販売して欲しい」とのご要望を多数いただいております。より多くの方にお試しいただけるよう、オンラインでの販売を開始いたしました。家庭菜園や家庭園芸を楽しまれている方々に広くご活用いただければ幸いです。



デンカアヅミン
【1.8kg×1袋】

- 特長** 当社独自の製法による高活性腐植酸を含有
腐植酸と苦土(マグネシウム)を主成分とする土づくり肥料
根の活性を高め、肥料の効きやすい土壌環境を形成
- 対象作物** 野菜、果樹、花などに幅広く使用可能
- 使用方法** 植え付け前に100～200g/㎡を目安に、深さ5～10cmに混和
※窒素・リン酸・カリ肥料等は別途ご使用ください
- 購入方法** JAタウンで販売しております。
下記URLもしくはQRコードよりサイトにアクセスのうえ、
商品購入手続きにおすすみください。

URL : <https://www.ja-town.com/shop/c/c9514>



※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

今回オンラインで販売を開始した「アヅミン」以外にも、独自のサイエンスをスキンケアに活かした「uruoi」や、雨水をトイレ洗浄用途に利用する「PURE EDEN ピュアエデン」など、デンカは素材にとどまらない幅広い製品で、これからもみなさまの豊かな生活づくりに貢献してまいります。

Pick Up! ▶ PURE EDEN ピュアエデン

雨水をタンクに集水し、トイレ洗浄用途に利用できるPURE EDEN。2024年にグッドデザイン賞を受賞しています。詳しくは下記サイトからご覧ください。

URL : https://www.denka-astec.co.jp/lp/pure_eden/

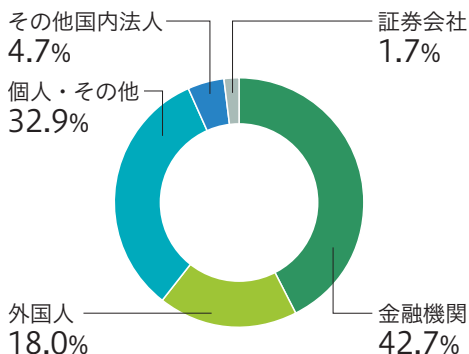


株式情報 (2025年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数 290,000,000株
発行済株式総数 88,555,840株
株主数 65,986名

株式所有者別分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	158,687	18.39
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	91,719	10.63
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	32,158	3.73
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	26,493	3.07
大樹生命保険株式会社	23,816	2.76
株式会社日本カストディ銀行(信託口4)	17,979	2.08
野村信託銀行株式会社(投信口)	17,637	2.04
デンカ従業員持株会	15,981	1.85
JP MORGAN CHASE BANK 385781	11,783	1.37
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	11,273	1.31

(注) 1. 当社は、自己株式2,286,500株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を除外して計算しております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
株主確定基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 6月
公告方法 電子公告の方法により行います。
ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告を行うことができないときは、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載URL (<https://www.denka.co.jp/>)

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

特別口座の
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社
証券代行部
☎ 0120-782-031
(受付時間 土日休日を除く 9:00～17:00)

インターネット
ホームページURL <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>
上場証券取引所 東京証券取引所
証券コード 4061

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。(支払開始日から満3年が経過したものを除く。)